

とよたおいでんバスを利用した 観光地周遊に関する研究

尾崎 優貴¹・野田 宏治²・大森 峰輝³・荻野 弘⁴・廣島 康裕⁵

¹学生会員 豊田工業高等専門学校 専攻科 建設工学専攻 (〒471-8525 愛知県豊田市栄生町2-1)

²正会員 豊田工業高等専門学校教授 環境都市工学科 (〒471-8525 愛知県豊田市栄生町2-1)

E-mail:noda@toyota-ct.ac.jp

³豊田工業高等専門学校教授 建築学科 (〒471-8525 愛知県豊田市栄生町2-1)

E-mail:omori@toyota-ct.ac.jp

⁴正会員 株式会社キクテック 技術顧問 (〒470-2295 愛知県知多郡阿久比町大字卯坂字梅ヶ丘150)

E-mail:h_ogino@kictec.co.jp

⁵正会員 豊橋技術科学大学教授 工学部建築・都市システム学系 (〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1)

E-mail:hirobata@ace.tut.ac.jp

豊田市足助地域で開催された二つのイベントで観光客に対し、観光に関する意識調査を実施した。3月に開催された「中馬のおひなさん」では、高齢者の回答が多く、10月から11月に開催された「香嵐溪もみじまつり」では、20歳代から70歳代まで広い年齢層の回答であった。どちらのイベントについても満足の評価が多かった。足助地域までの交通手段については、「中馬のおひなさん」では80%が自動車利用。「香嵐溪もみじまつり」では60%以上が自動車利用であった。路線バスの利用者は2%程度であった。

本研究では、路線バスを観光客に利用を促し、路線バス利用者増に結び付け、山間地域路線バスの維持・存続を検討する。

Key Words :bus, sightseeing,

1 はじめに

豊田市では市民の交通手段の8割が自動車¹⁾に依存し、こうしたことから豊田市内では、交通渋滞や交通事故発生などの問題を多々抱えている。公共交通機関については豊田市公共交通基本計画²⁾に基づき、平成19年11月1日に民営バスの一部路線の廃線を受け市営の「とよたおいでんバス」³⁾が発足した。おいでんバスは豊田市市街地を中心に旧町村とを結ぶ放射状の路線が整備され、旧町村内に整備された地域バスやその他の民営バスと補完し合って豊田市全体の公共交通を担っている。

しかしながら、市内での路線バスは、高校生の通学や高齢者の通院・買物目的による目的がほとんどで、利用の拡大は見込めない状況にある。また旧町村では人口の減少も加わり、地域経済も縮小傾向にある。せっかく整備された路線バス網は利用者の減少で路線縮小や路線廃止がバスの運営評価委員会の提言で検討課題としてあげられ、何らかの手段による利用者の増加が求められている。

豊田市には、豊かな自然や歴史的街並み、あるいは

参加型の和紙工芸が楽しめる施設や歴史的な土木構造物など多くの観光資源があり、年間を通して市内に多くの観光客が訪れる。特に足助地域に位置する香嵐溪のもみじは全国的に有名で、秋には特に多くの観光客が自動車で訪れ、足助地域に通じる道路交通は渋滞でマヒする状況にある。

そこで本研究では、豊田市内を訪れる観光客に路線バスを利用してもらうことができず、バスの利用者増に繋がらないか検討する。

2 研究手順

本研究の手順を図-1に示す。研究では、2回のイベントで観光客に交通手段と観光に関する調査を実施した。1回目は、2月から3月初旬に開催される「中馬のおひなさん」を楽しむ観光客を対象に、2回目は、10月から11月に行われる「香嵐溪もみじ祭り」の観光客を対象に実施した。

1回目の調査結果から来場者のほとんどが自動車を利用していることが明らかになったため、2回目の調査では、足助地域までは自動車を交通手段のま

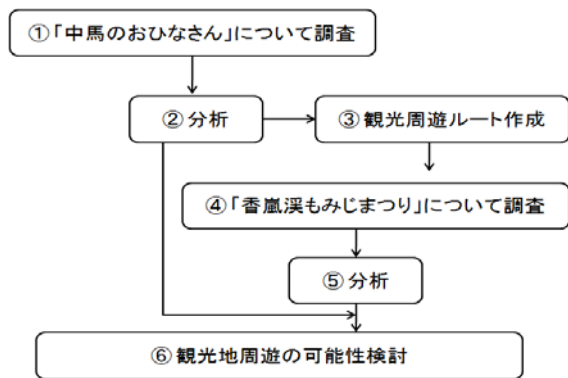


図-1 研究手順

まで、足助地域から周辺の観光地へは路線バスを利用することの可能性を問う内容を加えた調査票で調査を実施した。

2つの調査結果から、路線バスを利用した観光地周遊の可能性を検討する。

3 豊田市北部の公共交通機関と観光

豊田市は、旧豊田地域と合併した足助地域、旭地域、稲武地域、藤岡地域、小原地域、下山地域で構成される。ここでは、豊田市中心地域を除く豊田市北部の公共交通機関について以下に記す。

3.1 公共交通機関と利用者数の推移

図-2に示すおいでんバスは、平成19年以降、豊田市公共交通基本計画に基づいて発足し、現在多くの路線が豊田市中心市街地から放射状に設けられており、足助地域や旭地域、小原地域といった豊田市北部には9路線⁴⁾があるが、利用者数は少ない。表-1に豊田市北部の路線別おいでんバス利用者数と運営状況⁵⁾を示す。平成22年度と平成23年度を比較すると、利用者数は、路線によって増減はあるが、全体で見ると大きな変化はない。しかし、藤岡・豊田線(西中山経由)と旭・足助線は路線が延伸されたこともあり25%以上の増加が、一方、川口・飯野線は前年より18%減となっている。豊田市北部の路線の合計は2%増となっているが、赤字額を見ると全ての路線で赤字になっており、平成23年度の豊田市北部を合計すると、約2億円になる。

図-3に豊田市北部のおいでんバス利用者数の推移⁵⁾を示す。年度別で見ると平成20年度から平成23年度の間で、増加傾向が見られる。月別に見ると8月が極端に少ないことが分かる。これは8月に学校が夏休み期間中のため、利用が減っていると予測できる。

今回調査を実施した足助地域に繋がる路線バスの利用者数は、年度によって大きな変動は見られないが、11月は利用者が増加している。これは香嵐溪の

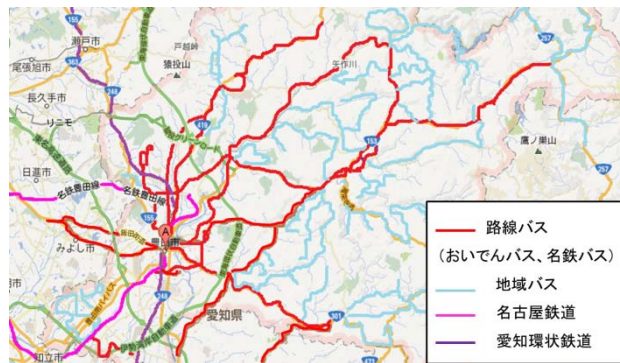


図-2 豊田市内の公共交通機関³⁾

表-1 豊田市北部のおいでんバス利用者数と運営状況⁵⁾

おいでんバス	利用者数(人)		利用者数の増減率(%)	運行経費(千円)	収入等(千円)	赤字額(千円)
	平成22年度	平成23年度				
藤岡・豊田線(加納経由)	90,394	93,830	3.8	39,709	22,487	-17,222
小原・豊田線	173,922	165,164	-5	30,093	65,519	-24,574
藤岡・豊田線(西中山経由)	84,609	109,396	29.3	40,949	24,445	-16,504
川口・飯野線	7,979	6,521	-18.3	11,969	627	-11,342
旭・豊田線	77,677	69,493	-10.5	79,206	54,348	-24,858
旭・足助線	17,246	21,867	26.8	30,938	18,675	-12,263
稲武・足助線	67,470	56,346	-16.5	58,776	20,833	-37,943
さなげ・足助線	171,524	179,265	4.5	107,823	60,025	-47,798
下山・豊田線	133,235	140,392	5.4	56,846	46,548	-10,298
合計	824,056	842,274	2.2	516,309	313,507	-202,802

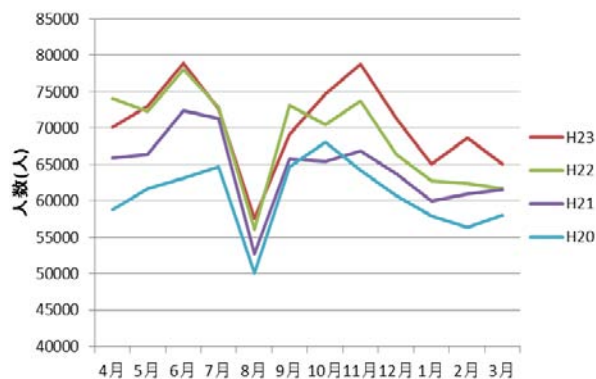
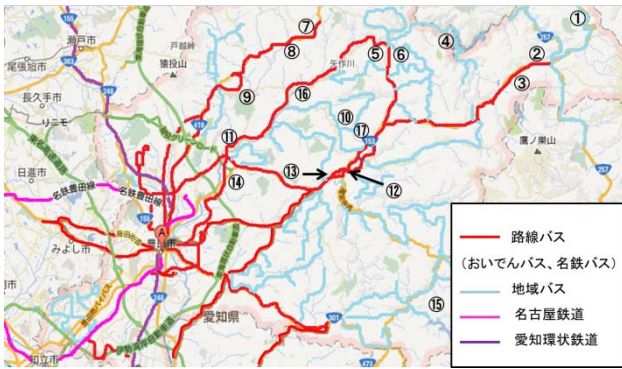


図-3 豊田市北部のおいでんバス利用者数の推移⁵⁾

もみじが紅葉の最盛期を迎えるため、利用者が多少増えていると考えられる。

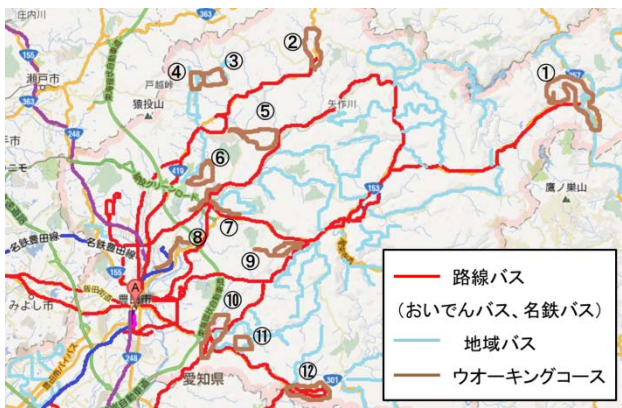
3.2 北部地域の観光

豊田市北部には季節ごとに、自然や温泉など、地元ならではのものを活かした観光資源が多々存在している。図-4に豊田市北部の公共交通機関と観光地を示す³⁾⁴⁾⁷⁾⁸⁾⁹⁾¹⁰⁾¹¹⁾¹²⁾。図から豊田市北部には、観光資源となる観光地が多数あることが分かる。また、これらの観光地はバス路線の沿線に位置するものが多く、図-4に示す笹戸温泉や榊野温泉といった温泉街、図-5に示すウオーキングコース⁹⁾といった観光資源が多数見られ、観光地周遊の際の観光地として有効活用可能であることが分かった。



①	ブルーベリーレーンいなぶ	②	どんぐりの湯
③	ほうらいせん吟醸工房	④	矢作ダム
⑤	小渡温泉	⑥	貞観杉
⑦	和紙のふるさと	⑧	四季桜
⑨	ふじの回廊	⑩	岩戸山風天洞
⑪	広瀬やな	⑫	石野サーキット
⑬	香嵐渓等	⑭	百年草
⑮	三河湖・香恋の館	⑯	笹戸温泉
⑰	榑野温泉		

図4 豊田市北部の公共交通機関と観光地の例³⁾⁴⁾⁷⁾⁸⁾⁹⁾¹⁰⁾¹¹⁾¹²⁾



①	どんぐりの里コース	②	小原四季桜川見・前洞
③	石畳・三箇自然満喫コース	④	石畳ふれあい広場コース
⑤	御作〜川口夢・こもれび街道コース	⑥	昭和の森コース
⑦	健康石野路コース	⑧	矢作川ふれあいてくてくコース
⑨	正三みちロマンコース	⑩	巴川コース
⑪	松平の郷ウォーキングコース	⑫	花山大沼コース

図5 豊田市内のウォーキングコース⁹⁾

3. 3 足助地域の観光

足助地域の年間行事を表-2に示す⁷⁾。足助地域には、年間を通じて様々なイベントがあり、多くの人が足を運んでいる。しかし、中馬のおひなさんでのアンケートによると、PR不足もあるが、香嵐渓もみじまつり以外のイベントはあまり知名度が高くない。

香嵐渓もみじまつりは非常に人気があり、毎年紅葉が見ごろの11月になると国道153号線で交通渋滞が発生し、大きな問題となっている。しかし、足助地域ではイベントがあるたびに駐車スペースを提供し、その料金で香嵐渓の整備を行っているため、自動車利用者が減るような対策方法の考案は難しい。

表-2 年間行事一覧⁷⁾

1月	八幡宮七草粥	8月	足助夏まつり
2~3月	中馬のおひなさん	8月	綾渡の夜念仏と盆踊
4月	足助春まつり	8月	たんころりんの夕涼み
4月	三ツ足栗園 わらび狩り	9月	三ツ足栗園 栗ひろい
4月	神越溪谷 溪流釣り大会	9月	香嵐渓 月見の会
5月	あすけルネッサンス	10月	足助まつり
6月	ホテルウオッチング	10月	商工会祭り
6月	たんころりん	11月	香嵐渓もみじまつり
8月	巴川鮎まつり	11月	足助の町並み 芸術さんぽ

表-3 アンケート内容

	中馬のおひなさん	香嵐渓もみじまつり
内容	足助地域の評価	
	イベントの評価	
	交通手段	
	おいでんバスの評価	
	個人属性	
	環境への意識	観光地周遊

4 観光に関する調査分析

4. 1 中馬のおひなさんアンケート調査概要

アンケートは、足助地域の魅力の裏付け、交通手段の把握、おいでんバスの現状の把握を目的として、「足助地域の評価」、「中馬のおひなさんの評価」、「交通手段」、「おいでんバスの評価」、「個人属性」などについて質問した(表-3)。

調査票は、平成24年3月10日(土)~11日(日)(両日とも晴れ)に中馬のおひなさん開催地で、観光客に手渡しで配布した。

4. 2 香嵐渓もみじまつりアンケート調査概要

アンケートは中馬のおひなさんで行ったものと評価が比較できるように表-3に示すほぼ同様の内容で行った。足助地域の魅力の裏付け、交通手段の把握、おいでんバスの現状の把握を目的として、「足助地域の評価」、「香嵐渓もみじまつりの評価」、「交通手段」、「おいでんバスの評価」、「個人属性」について質問した。また、観光地周遊の可能性の検討のために、「観光地周遊」についての項目を新たに追加し、アンケートを行った。

アンケートは、平成25年12月1日(土)(晴れ)に観光客に手渡しで配布した。

4. 3 分析結果

(1) 回収率と回答者属性

a) 回収率

各調査の配布・回収状況を表-4に示す。中馬のおひなさんでは、300の調査票を1部手渡しで配布し、郵便で回収した。回収率は、41%であった。香嵐渓もみじまつりでは1,000の封筒に調査票を3部

表4 アンケート回収結果

	封筒			調査票		
	配布数	回収数	回収率(%)	配布数	回収数	回収率(%)
中馬のおひなさん	300	123	41.0	300	123	41.0
香嵐溪もみじまつり	1,000	241	24.1	3,000	314	10.5

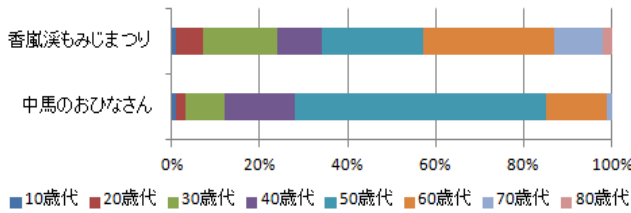


図-6 回答者の年齢構成

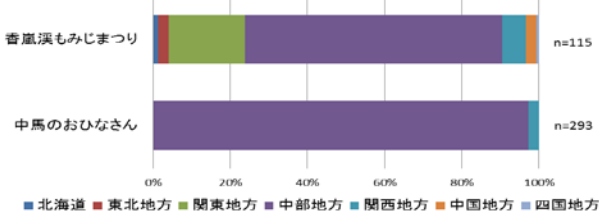


図-7 回答者住所

ずつ入れ、手渡しで配布した。封筒での回収率は24.1%であった。中馬のおひなさんでは高齢の観光客が多く、香嵐溪もみじまつりでは、若年層が多く、回収率の差につながったものと考えられる。

b) 性別

中馬のおひなさんでは男性が36%、女性が64%の結果であった。香嵐溪もみじまつりでは、男性が46%、女性が54%という結果であった。

c) 年齢構成

図-6に回答者の年齢構成を示す。中馬のおひなさんを見ると50歳代の回答者が57%で非常に高いことが分かる。また40歳代、60歳代も約15%となっており、中高年層の回答者が非常に多いことが分かる。一方、香嵐溪もみじまつりでは、60歳代の回答者が30%、50代が23%、30代が17%となり、広い年齢層であることがわかる。

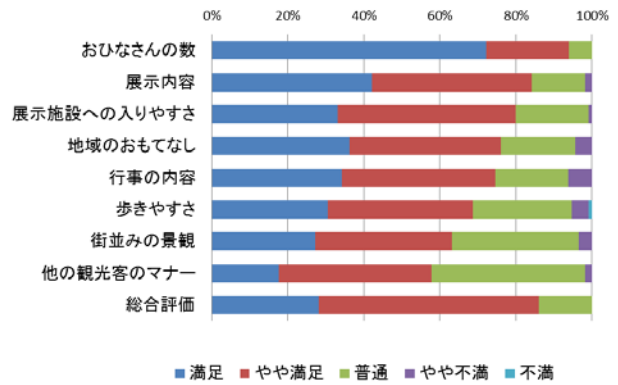
d) 回答者住所

図-7に回答者の住所を示す。図より中馬のおひなさんでは、愛知県が78%、静岡県では11%、岐阜県では7%となり、中部地方からの来訪者が95%となった。香嵐溪もみじまつりでは、中部地方だけでなく、東京都8%、兵庫県が約2%で、関東地方全体では20%、関西地方全体では6%となり、遠方からの観光客も多いことが分かった。

(2) イベントについて

a) 満足度

中馬のおひなさんの満足度を図-8に示す。満足・やや満足と答える人が非常に多く、60%を超える項目がほとんどである。その中でも特に「おひなさんの数」に満足・やや満足と答える人が90%を超



項目別に集計、ただし不明を除く。(n=113~115)

図-8 中馬のおひなさん満足度

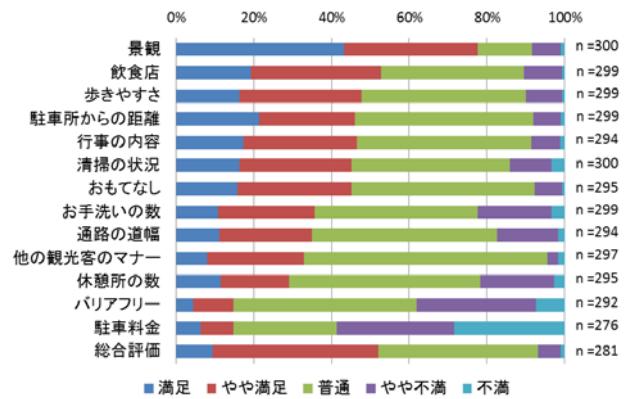


図-9 香嵐溪もみじまつり満足度

えており、高い値となっている。一方、不満側の回答はほとんどなかった。しかし、自由記述欄を見ると、展示方法が悪いという意見や、扉が閉まっているため、おひなさんを見学しづらいという意見が約8%あり、改善点も見受けられた。

香嵐溪もみじまつりの満足度を図-9に示す。「景観」に対して満足・やや満足と答える人は約80%となっており、遠方の方々が足を運ぶだけの魅力を持っていることが分かる。しかし、他の項目ではそれほど高い値になっていない。

不満・やや不満について見ると、「駐車料金」に不満を持つ回答が約60%あった。自由記述欄の中には、「駐車料金」に対する不満は約9%あり、値下げを求める声があった。また、「トイレの清掃状況」への不満も約9%あった。

b) 満足度の因子分析

イベントごとに観光客が意識する分野を明確にするため因子分析を行った。中馬のおひなさんの結果を表-5に、香嵐溪もみじまつりの結果を表-6に示す。

中馬のおひなさんについては、満足度の評価から主に2つの因子が抽出された。各因子について、他と比べて大きな絶対値を示したものには色付けした。因子1は、地域のおもてなし、行事内容、歩きやす

表-5 中馬のおひなさん因子分析結果

	因子1	因子2	共通性
おひなさんの数	-0.2287	0.52306	0.3259
展示内容	-0.22302	0.97373	0.99788
展示施設への入りやすさ	-0.59939	0.31932	0.46123
地域のおもてなし	-0.66784	0.30966	0.5419
行事の内容	-0.6662	0.34931	0.56584
歩きやすさ	-0.73236	0.16216	0.56265
街並みの景観	-0.67501	0.13861	0.47485
他の観光客のマナー	-0.65609	0.22252	0.47997
負荷重の二乗和	2.77358	1.63663	
寄与率	34.66978	20.45792	
累積寄与率	34.66978	55.1277	

表-6 香嵐溪もみじまつり因子分析結果

	因子1	因子2	因子3	共通性
行事内容	-0.12272	-0.5473	0.31472	0.41364
景観	-0.18256	-0.4561	-0.00281	0.24136
飲食店の充実性	-0.19487	-0.81432	0.08419	0.70818
地域のおもてなし	-0.36245	-0.72839	0.21786	0.70938
歩きやすさ	-0.67211	-0.36034	0.14065	0.60136
通路の道幅	-0.61922	-0.20904	0.32182	0.53069
バリアフリー	-0.58644	-0.20972	0.25458	0.4527
休憩所の数	-0.6653	-0.33294	0.20565	0.59576
お手洗いの数	-0.80549	-0.18365	0.15028	0.70513
清掃の状況	-0.58729	-0.09698	0.08547	0.36162
他の観光客のマナー	-0.55594	-0.25478	0.13718	0.3928
駐車場からの距離	-0.45566	-0.13128	0.60237	0.58771
駐車料金	-0.14187	-0.11964	0.61154	0.40843
負荷量の二乗和	3.36997	2.1692	1.1696	
寄与率	25.92282	16.68612	8.99692	
累積寄与率	25.92282	42.60893	51.60585	

さなど、観光のしやすさや内容についての項目の集まりなので、「観光地の環境」に関する因子だと考えられる。因子2は、展示内容についての項目の集まりなので、「展示内容」に関する因子だと考えられる。因子1・2の累積寄与率は55.1%となった。この結果から、観光客に楽しんでもらうための環境の整備など、迎え入れる態勢を整えることが重要であると言える。

香嵐溪もみじまつりについては、満足度の評価から主に3つの因子が抽出された。因子1については、中年層の観光客が多かったため、お手洗いの数や休憩所の数といった「設備の充実性」に関する因子。因子2については、飲食店や地域のおもてなしといった観光客を迎え入れる態勢についての項目の集まりなので、「サービス」に関する因子。因子3については、駐車料金や駐車場からの距離といった駐車場状況についての項目の「駐車場」に関する因子となった。因子1~3までの累積寄与率は51.6%であった。この結果から、お手洗いや、飲食店の改善が必要であることが分かった。また駐車料金についても改善が必要だと思われる。

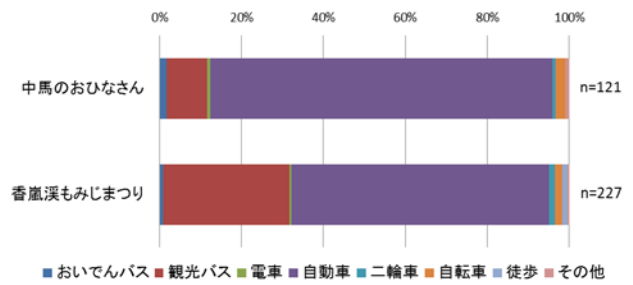


図-10 回答者の交通手段

(3) おいでんバスについて

a) 交通手段

図-10に回答者の交通手段を示す。図より中馬のおひなさんにおいては、「自動車」による来訪が80%を占めていた。東海環状自動車道や新東名高速道路、グリーンロードといった道路網の整備により、静岡県や、岐阜県といった比較的遠方から自動車でくる観光客が多いと考えられる。「おいでんバス」の利用者については約2%であった。

香嵐溪もみじまつりにおいても、「自動車」の割合が高く、60%を占めていた。これは、中馬のおひなさんと同様の理由で遠方から自動車を利用してくる観光客が多いと考えられる。また、東京など中馬のおひなさんよりもさらに遠方からの来場者が見られたため、「観光バス」の割合が30%程度となっている。「おいでんバス」利用者は2%であった。

両イベントともおいでんバスによる来場者は非常に少ないという結果になった。

b) おいでんバスの認知度

両イベントとも県外からの観光客が多く、おいでんバス利用者は全体の約2%だったにも関わらず、おいでんバスの認知度は、中馬のおひなさんでは33%、香嵐溪もみじまつりでは22%であった。

c) おいでんバス満足度

図-11に中馬のおひなさんの開催時のおいでんバスに対する満足度、図-12に香嵐溪もみじまつりの開催時のおいでんバスに対する満足度を示す。この項目はおいでんバスを知っている人を対象に質問したため、サンプル数が少なく、バス利用者の回答者の傾向となった。

図-11を見ると、中馬のおひなさんでのおいでんバスの満足度は「運転手の運転、態度」に満足・やや満足と答えた観光客が約80%となり、一番高い評価となった。次に「自宅からバス停までの距離」の満足度が約60%となった。一方、不満・やや不満については「運行時間帯」と「運行本数」がともに約60%を占めている。足助地域を通るおいでんバスの運行時間帯は朝と夕方の時刻に多いが、最終便は非

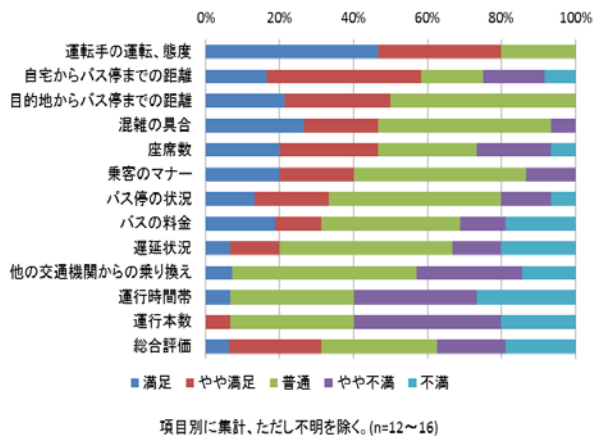


図-11 中馬のおひなさんのおいでんバス満足度

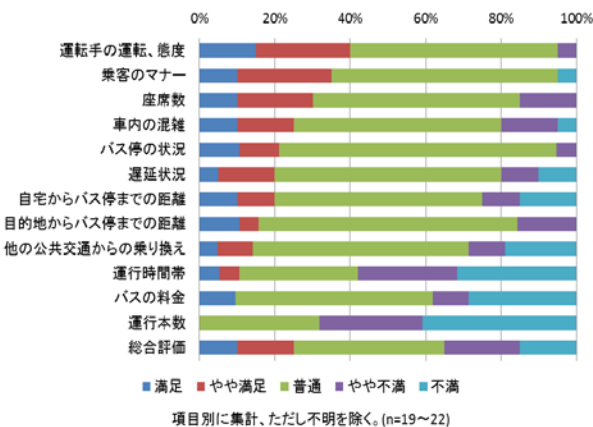


図-12 香嵐溪もみじまつりのおいでんバス満足度

常に早く、ほとんどのバス停で22時前であった。運行本数については平日で1日平均10本、休日で8本であった。

図-12に示す香嵐溪もみじまつりの開催時では、満足・やや満足と答える回答者は非常に少なく、一番多いもので「運転手の態度、運転」の約40%となっているが、「運行時間帯」、「バスの料金」、「運行本数」については10%を下回っている。一方、不満・やや不満については、「運行本数」が70%程度を占めており、一番評価が悪かった。それに次いで「運行時間帯」が60%程度を占めている。

両イベントとも、「運転手の態度や運転」に満足・やや満足と答える人が多く、おいでんバスの魅力の一つだと分かった。一方、「運行本数」、「運行時間帯」に不満を持つ人が60%以上いることが分かった。また、自由記述欄においても「運行時間帯」についての記述が多く、愛知県安城市在住の49歳の女性からもっと夜遅くまで運行していれば利用したいという意見や、愛知県豊田市在住の48歳の男性は、お酒を飲んだ後利用したいため、もう少し遅くまで運行してほしいという意見が見られた。

表-7 サービス改善後の利用意志

	中馬のおひなさん		香嵐溪もみじまつり	
	男性	女性	男性	女性
利用したい	18人(45.0%)	46人(46.9%)	30人(51.7%)	28人(48.3%)
利用したくない	22人(55.0%)	52人(53.1%)	28人(48.3%)	30人(51.7%)
合計	40人	98人	58人	58人

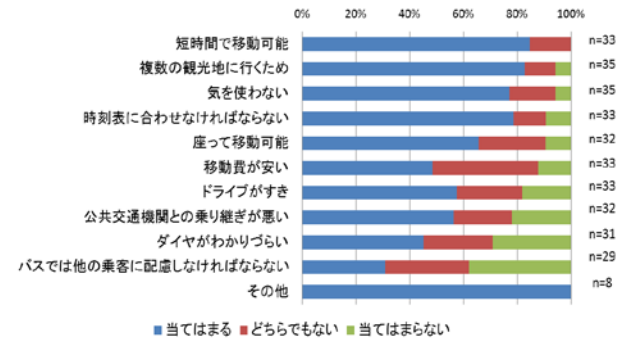


図-13 中馬のおひなさんで自動車を利用する理由

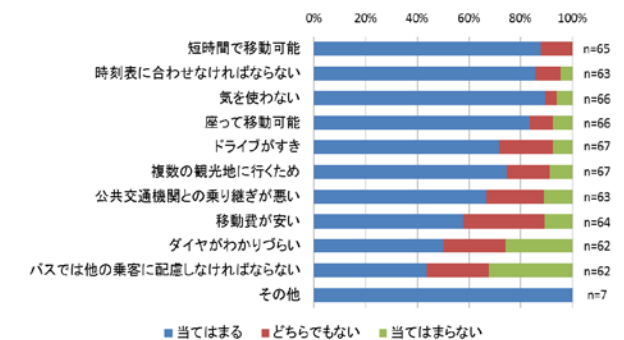


図-14 香嵐溪もみじまつりで自動車を利用する理由

f) サービス改善後の利用

表-7においでんバスのサービスが改善された場合、利用したいかどうか性別毎にクロス集計した結果を示す。イベントごとに見ても、性別ごとに見ても50%程度がおいでんバスのサービス改善後に利用したいと回答しており、サービスの改善によりおいでんバスの利用者の増加が見込めるとされる。

(4) 自動車利用について

回答者のおいでんバスの認知度は30%であった。しかしながら、実際においでんバスを利用して足助地域まで訪れた人はわずか2%程度であった。一方、自動車による来訪者は70%以上であった。そこで自動車をを用いて足助地域に来訪した回答者を対象に、バスではなく、自動車を利用した理由を質問したところ図-13と図-14に示す回答が得られた。

中馬のおひなさんでの自動車利用理由では図-13より「気を使わない」、「複数の観光地に行くため」、「短時間で移動可能」、「時刻表に合わせなければならない」という理由が70%を超えている。

香嵐溪もみじまつりでの自動車利用理由では図-14より「座って移動可能」、「気を使わない」、「短時間で移動可能」、「時刻表に合わせなければならない」という理由が80%を超えている。

今後のおいでんバスはこれらの項目について重点的に改善していくべきだと思われる。

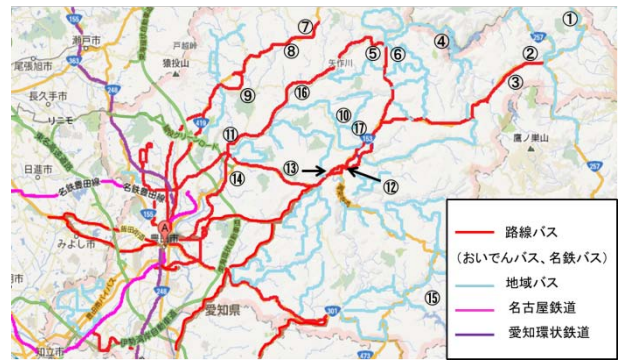
5 観光地周遊について

図-15 に路線図と沿線の観光地を示す。³⁾⁴⁾⁷⁾⁸⁾⁹⁾¹⁰⁾¹¹⁾¹²⁾これを見ると、おいでんバスと地域バスの沿線に多くの観光地があることが分かる。時刻表やバス停から観光地までの距離等を調べたところほとんどの観光地がバス停から150m圏内に位置し、おいでんバスを用いて観光地の周遊ができることが分かった。以下に観光地周遊について記す。

5.1 観光地周遊ルート例

図-16 に足助地域と稲武地域の周遊ルートを示す。この周遊ルートはまず足助地域からおいでんバス稲武・足助線の「香嵐溪」(バス停)で午前10時26分に乗車し、午前11時5分に「黒田」で下車する。ほうらいせん吟醸工場で、1時間お酒の試飲や工房見学、買い物をする。¹⁴⁾次に、午後12時5分に足助・稲武線に乗車し、午後12時13分に「どんぐりの湯前」で下車する。3時間34分の間、温泉(入浴料:600円)やどんぐり横丁で買い物、食事⁷⁾をする。最後に、午後3時47分に足助・稲武線に乗車し、午後4時34分に「香嵐溪」に戻ってくる周遊ルートである。運賃は合計で1,400円⁴⁾で、どんぐりの湯の入浴料と合わせると2,000円である。お酒をたしなみながら観光ができる周遊ルートである。

図-17 に足助地域と旭地域の周遊ルートを示す。この周遊ルートは足助地域からおいでんバスのさなげ・足助線の「香嵐溪」で午前9時41分に乗車し、午前10時に「広瀬」で下車する。広瀬やなで、鮎つかみ体験や食事(食事代:一品300~3,000円¹⁵⁾)を2時間楽しむ。次に、午後12時5分に旭・豊田線に乗車し、午後12時30分に「笹戸」で下車する。笹戸温泉で、2時間温泉(入浴料:1,000円¹⁶⁾)を楽しむ。次に、午後2時30分に旭・豊田線に乗車し、午後2時40分に「小渡」で下車する。小渡温泉で、1時間20分温泉(入浴料:800円¹⁷⁾)を楽しむ。最後に、午後4時に旭・足助線に乗車し、午後4時41分に「香嵐溪」に戻ってくる周遊ルートである。運賃は合計で1,400円⁴⁾で、笹戸温泉と小渡温泉の入浴料を合わせると3,200円と温泉地巡りに的を絞った周遊ルートである。



① ブルーベリーレーンいなぶ	② どんぐりの湯
③ ほうらいせん吟醸工場	④ 矢作ダム
⑤ 小渡温泉	⑥ 貞親杉
⑦ 和紙のふるさと	⑧ 四季桜
⑨ ふじの回廊	⑩ 岩戸山風天洞
⑪ 広瀬やな	⑫ 石野サーキット
⑬ 香嵐溪等	⑭ 百年草
⑮ 三河湖、香恋の館	⑯ 笹戸温泉
⑰ 榎野温泉	

図-15 路線図と観光地の例³⁾⁴⁾⁷⁾⁸⁾⁹⁾¹⁰⁾¹¹⁾¹²⁾

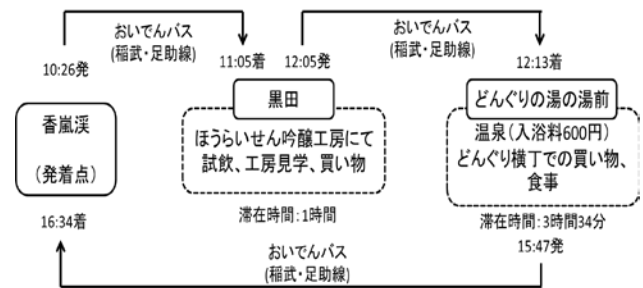


図-16 足助-稲武の周遊ルート

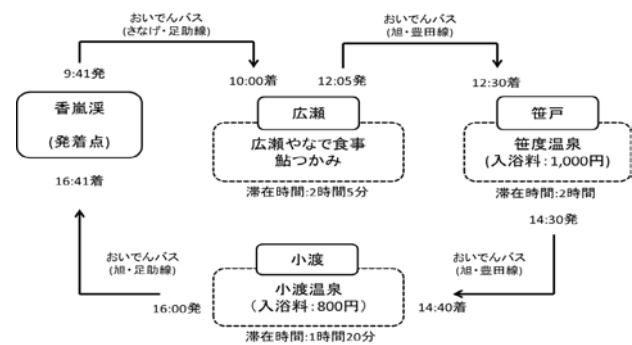


図-17 足助-広瀬-旭の周遊ルート

5.2 観光地周遊の可能性

図-16, 17 に示す観光地周遊ルートを実際にご利用したいか、香嵐溪もみじまつりでのアンケートでのみ質問を行った結果を以下に記す。

(1) 性別と年代別に見た観光地周遊の可能性

図-18 に男性とのクロス集計結果、図-19 に女性とのクロス集計結果を示す。サンプル数の一部が少ないため、一部回答者の傾向である。

図-18 を見ると、男性については20歳代の約40%

が利用したいと回答しており、最も多い結果となった。一方、80歳代、70歳代といった高齢の世代は利用したいと回答した人は0%となった。他の世代でも利用したくないという回答が多く見られ、利用したいという回答を上回っている。若年層は好奇心が旺盛で、新しいものに魅かれたことがこの結果につながったと考えられる。また、高齢の世代については、新しい観光のスタイルに便乗しづらかったのではないかと考えられる。

図-19を見ると、女性についても20歳代、30歳代といった若年の世代に利用したいとの回答が多く、40%を超えている。一方、70歳代では10%に満たない結果となった。女性についても男性と同様の理由でこのような結果になったと考えられる。

両者を見てみると、女性の方が利用したいと答えた回答者が比較的多く、興味を示している人が多数見られる。中には自由記述欄に今度周遊ルートを利用してみたいという意見があり、強く興味を示す例もあった。また、利用したいと答えた回答者は若年の世代に多く見られた。

(2) 居住地別に見た観光地周遊の可能性

図-20にアンケート回答者の居住地と観光地周遊利用の可能性のクロス集計の結果を示す。北海道や四国地方、中国地方、東北地方のサンプル数が少ないため、一部回答者の傾向である。

5. 3 観光地周遊の可能性の検討

以下に観光地周遊の可能性について検討する。

観光地に関しては、中馬のおひなさんは満足度が非常に高く、魅力的な観光地であることが分かった。また、香嵐溪もみじまつりでは「景観」の満足度が非常に高く、関東や関西といった遠方の方が来場していることから、観光地としての魅力があると考えられる。

おいでんバスに関しては、利用者は2%程度となり非常に少なかったが、認知度について見てみると、約20%が認知しているという結果になり、利用者数の割には認知者が多い。また、今後おいでんバスのサービスに改善があった場合、おいでんバスを利用したいという人は半数近くおり、運行本数や運行時間帯の再検討、車内環境の改善によりおいでんバス利用者は増えると考えられる。

これを見ると、遠方にも関わらず北海道在住の来訪者の60%以上が利用したいと答えており、一番高い値となっている。次に中部地方が多く20%を上回っているが、利用したくないと答えた回答者も多く、ほぼ等しい値となっている。他の地方についてもほとんどが10%を上回る結果となっており、観光地周

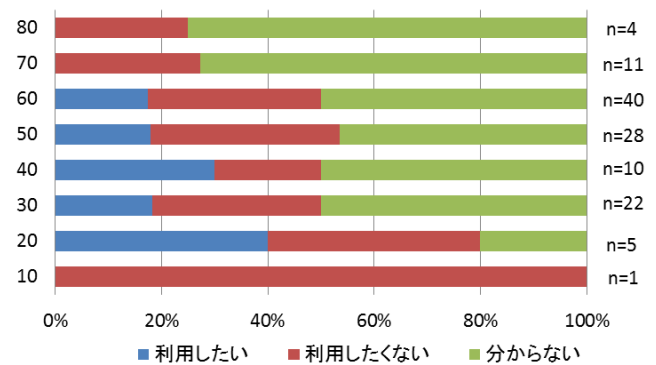


図-18 観光地周遊の可能性 (男性)

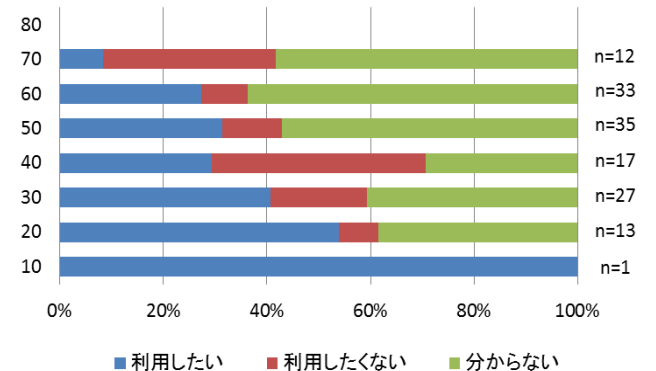


図-19 観光地周遊の可能性 (女性)

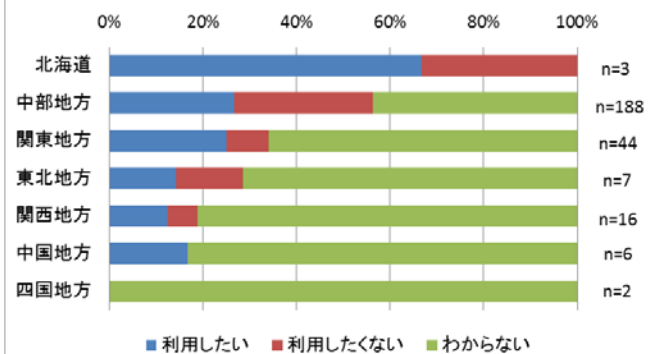


図-20 観光地周遊の可能性 (住所)

遊に興味を示す回答者が多く見られた。

観光地周遊に関しては、10歳代から30歳代の女性の40%が興味を示していることが分かった。また、中部地方以外にも関東地方や東北地方で興味を示す人が多かった。

今回は足助を中心とした観光地周遊の例として2つのルートしか作ることが出来なかったが、路線図とおいでんバス沿線の観光地を照らし合わせたところ、まだいくつか周遊ルートの提案が可能であると分かった。また、現在九州産交のツアーに、路線バスで観光地を巡るツアーが販売されている¹⁸⁾。

以上の結果より、観光地周遊の可能性を検討しようとしたが、1回のアンケートではデータ数が少なく、信頼性が低い。また、社会実験による観光地周遊の問題点の抽出・解決を行っていないため、現段階で観光地周遊の可能性を完全に検討することは難しい。

だが、今回のアンケートにより、今後の観光地周遊の可能性の希望や展望を見出すことが出来た。

6 まとめ

本研究でのアンケート及び調査により、以下のことが明らかになった。

(1) 豊田市北部の観光と交通について

豊田市北部のバス路線の沿線には多数の観光地があり、観光地周遊の可能性を見出せた。

(2) イベントについて

① 中馬のおひなさん

東海環状自動車道や新東名高速道路といった交通網の発達により、静岡県からの来場が多かった。また、イベントの満足度は高く、魅力的だが、展示施設や展示方法の状況に問題があった。

② 香嵐溪もみじまつり

メディアの発信や交通網の発達により、東京都や兵庫県といった、中馬のおひなさんより、さらに遠方からの来場が多かった。また、イベントの評価については、景観の満足度が群を抜いて高かったが、駐車料金や、トイレの数や清掃状況に問題があった。

(3) おいでんバスについて

利用者が少なく、赤字経営であることが明らかになったが、サービス改善後の利用意識は 50%となり、運行本数や運行時間帯といった問題点の解決が重要だと分かった。

(4) 観光地周遊について

観光地周遊に興味を示すのは、30 歳代以下の女性に多いことが分かった。また、中部地方以外にも関東地方や東北地方で興味を示す人が多かった。

今回作成した周遊ルート以外にも複数の周遊ルートの作成が可能であり、九州産交でも路線バスを用いた観光地周遊が行われていることから、観光地周遊自体は可能であると分かったが、1 回のアンケートではデータが少なく、社会実験により問題点の抽出・解決を行っていないため、足助地域での観光地周遊の可能性の検討はできなかった。

(5) 今後について

市役所や観光協会、旅行代理店へのおいでんバスを用いた観光地周遊を提案する。その後、社会実験により、本研究で明らかになった問題点の解決や、新たな問題点の解決をする。そして、再度おいでんバスを用いた観光地周遊の可能性を検討する。

最後に、本研究で調査を実施するにあたり豊田市役所足助支所、三州足助公社、足助観光協会、足助町内の皆様にご協力をいただきました。記して感謝します。

【参考文献】

- 1) 豊田市公共交通基本計画（平成 19 年 3 月）
<http://www.city.toyota.aichi.jp/division/aj00/aj02/1194047/gaiyou.pdf>
- 2) 豊田市 HP <http://www.city.toyota.aichi.jp/>
- 3) 豊田市バスマップ（平成 23 年 10 月）
- 4) みちなびとよた
http://michinavitoyota.jp/main/c_train-bus.html?michiRouteParam=top_tex
- 5) 豊田市役所おいでんバス利用について
http://www.city.toyota.aichi.jp/pressrelease/1241506_7011.html
- 6) 豊田市ウオーキングコース例
http://www.city.toyota.aichi.jp/division/af00/af06/1193499_7116.html
- 7) 足助観光協会 HP <http://asuke.info/>
- 8) 稲武観光協会 HP <http://www.inabu-kankou.com/>
- 9) 旭観光協会 HP
<http://www.kankou-asahi.toyota.aichi.jp/>
- 10) 小原観光協会 HP
<http://www.kankou-obara.toyota.aichi.jp/>
- 11) 藤岡観光協会 HP <http://www.fujioka-kanko.com/>
- 12) 下山観光協会 HP
<http://www.karen-shimoyama.jp/>
- 13) 豊田市公共交通会議議事録（平成 22 年度第 2 回）
<http://www.city.toyota.aichi.jp/shingikai/aj/44/index.html>
- 14) ほうらいせん吟醸工房 HP <http://www.houraisen.co.jp/>
- 15) 広瀬やな HP <http://yamazato.aichi-kouryu.jp/2010/08/yana/>
- 16) 笹戸温泉「とうふや」 <http://www.toufuya.co.jp/info/qa.html>
- 17) 小渡温泉「はしもと」
<http://www.geocities.jp/onsenbaka1/odoonsenhasimoto.html>
- 18) 九州産交 HP <http://www.kyusanko.co.jp/>